

カンボジアの子どもたちを支えよう！

構成員	代表者	大下 凌矢 (教育B3年)			
	森山 和華 (教育B4年)	井上 恵莉菜 (人文B3年)	内山 直子 (教育B3年)		
	世良 倫華 (教育B3年)	時松 聡実 (教育B3年)	松浦 拓未 (教育B3年)		
	安田 佳奈 (国総B3年)	柚木 彩 (教育B3年)	高田 裕子 (国総B2年)		
	中野 亜紀 (国総B2年)	西園 優菜 (教育B2年)	西山 加菜 (教育B2年)		
	野口 有紀子 (教育B2年)	福原 沙也香 (教育B2年)	福本 希海 (教育B2年)		
	船引 聰子 (国総B2年)	前田 凌志 (教育B2年)	牧野 千尋 (国総B2年)		
	森重 勇一郎 (教育B2年)				

1. プロジェクトの発足経緯

本プロジェクトは「af SPLE (Association for Sport and Physical Literacy Education)」というカンボジアにおいて日本式の運動会を開催することで体育教育普及の先駆けとなることを目的として活動しているグループに目をつけ、活動を始めました。「af SPLE」では運動会に参加してくれた児童や生徒に参加賞として寄付物を渡しています。寄付物の内容としては鉛筆、消しゴム、ノートなどがあります。また単位でサッカーボールやバレーボールを寄付しているそうです。そこで私達はそれらの寄付物を集めることに注目し、近隣の学校へ寄付物を募ることにしました。またそこで終わらず、日本の児童生徒にカンボジアの現状を知ってもらい日本とカンボジアの架け橋になろうということで活動を行ってきました。

2. 活動結果

我々の活動結果を報告します。私達は山口大学周辺の小学校、中学校、高等学校を中心に寄付物を募ってくださる学校を探しました。3つのグループに分かれ、まず電話でアポイントメントを取り、どのようなプロジェクトなのかを説明しに行きました。その後、寄付物集めに協力していただけるのか確認を取り、実際に学校の子どもにどのようなプロジェクトなのか説明し、2~3か月ほど寄付物を集めさせていただきました。山口県立西京高等学校、山口大学教育学部附属山口中学校、山口市立平川中学校（山口県）、山口市立鴻南中学校（山口県）、山口市立平川小学校（山口県）の5校に協力していただき以下のものを集めることができました。



寄付物を分類している様子

3. 予算の執行に関して

お金の使い道について、当初の予定では集まった寄付物を「af SPLE」へ寄付物を郵送するのに使う予定でしたが、活動する中でどのような流れでカンボジアの子ども達に届くのか、受け取った時の様子はどのようなものな

のかが私達は理解できていませんでした。そのため、県内の学校へ説明をしに行っても薄い内容しか伝えることができなかつたため協力していただけないことがよくありました。そこで、「af SPLE」の会議に参加し情報共有を豊かなものにしようと考え、そこでお金を使うことにしました。実際に会議に参加させていただき、写真などの情報をいただくとともにビデオ撮影をお願いすることができ有意義なものとなりました。

表1 最終寄付物数

物品名	個数	物品名	個数	物品名	個数
ノート	904	ボールペン	835	筆箱	25
鉛筆	3495	アンケート用鉛筆	90	のり	14
キャップ	130	色鉛筆	210	テープ	2
鉛筆削り	31	クレヨン	29	はさみ	16
消しゴム	732	ファイル	62	彫刻刀	5
シャープペン	309	メモ	117	ホッチキス	4
シャープ芯	19	下敷き	14	ホッチキスの芯	2
カラーペン	694	定規	215	バインダー	5
クリップ	102	赤白帽子	190	スケジュール帳	3
付箋	24	ボール	17	原稿用紙	1
コンパス	5	フライングディスク	26	ルーズリーフ	5
そろばん	1	絵具	19	ビブス	12
トランプ	1	紙袋	1507	ゼッケン	74
リコーダー	119	折り紙	1	レターセット	4
鍵盤ハーモニカ	33	アルバム	1		



寄付した場面

4. 最後に

約1年間の活動で多くの寄付物を集めることができ、無事にカンボジアの子ども達へと届けることができました。多くの子ども達に笑顔が届けることができたと思います。しかし反省点としてカンボジアの子ども達にあげられないもの（状態が悪いもの）やカンボジアで必要としないもの（ランドセルなど）も集めたため来年度からは「af SPLE」と協力し何がいるのかを明確にしたうえで活動を行おうと思います。また、今後の活動としてカンボジアまでどのような形で寄付物が持って行かれたのか、どんな様子だったのか、カンボジアという国はどのような状況なのかなど「af SPLE」が持ち帰った情報を日本の子供達へとフィードバックしなければなりません。それとともに寄付物を集めてくれた児童・生徒にお礼を言わなければいけません。